①事　業　名		革新的ながん治療法の開発にむけた研究の推進（がんトランスレーショナルリサーチの推進）
②主管課及び関係課（課長名）		（主管課）研究振興局ライフサイエンス課（課長：戸谷　一夫）
③上位施策目標		施策目標４－２　ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進 達成目標４－２－（追加）平成 20 年度までに、がんに関してこれまで得られた基礎研究の成果を実用化につなげる研究を推進し、新しいがん治療法の開発につながる成果を創出する。
④事業の概要		平成１５年７月に文部科学省及び厚生労働省が共同で策定した「第３次対がん１０か年総合戦略」（平成 16 年度～平成 25 年度）では、基礎研究の成果を予防・診断・治療へ応用するトランスレーショナル・リサーチの推進を「重点的に研究を推進する分野」の中で掲げており、基礎研究成果の有効な活用の観点及び我が国発の有効な治療法の開発を促進するため、革新的ながん治療法の開発に向けた研究を推進する。 （参考） ・「対がん１０カ年総合戦略」（第１次対がん戦略）昭和５９年度～平成５年度 ・「がん克服新１０か年戦略」（第２次対がん戦略）平成６年度～平成１５年度 （旧文部省、旧厚生省、旧科学技術庁が共同で策定）
⑤予算額及び事業開始年度		平成１６年度概算要求額：2,５００百万円 事　業　開　始　年　度　：平成１６年度
⑥必　要　性		がんは、依然として我が国の死亡原因の第一位であり、年間約３０万人ががんにより死亡している。また、胃がん、子宮がん等による死亡率は減少する一方で、大腸がん等欧米型のがんは増加傾向にある。今後、有効な対策がとられない限り、がんの死亡者数は２０２０年には４５万人に増加するとの試算もある。 文部科学省と厚生労働省が共同で策定した「第３次対がん１０か年総合戦略」では、基礎研究の成果を予防・診断・治療へ応用するトランスレーショナル・リサーチの推進を「重点的に研究を推進する分野」の中で掲げており、がんに関する我が国の現状に鑑みれば、トランスレーショナル・リサーチを推進し、我が国発の有効な治療法の開発につなげることが急務である。
⑦効率性		我が国発の有効ながん治療薬等の開発が実現すればその経済効果は相当規模に上ることが期待される。 我が国はゲノム科学、免疫学等の分野で国際的にも高いレベルを有しており、これらの分野の優れた研究成果を有効に活用することにより、効率的な研究成果の創出を図る。
⑧有効性	達成効果の把握の仕方（検証の手順）	事業実施に当たっては、事後評価等を行うことにより、達成効果を把握する。
	得ようとする効果の達成見込みの判断根拠(判断基準)	我が国はゲノム科学、免疫学等で国際的にも高いレベルを有しており、これらの分野の優れた研究成果を有効に活用することにより、相当の成果が得られると判断。
⑨公平性、優先性		「平成１６年の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針」（平成１５年６月１９日、総合科学技術会議）において、「がんの予防・診断・治療への対応」はライフサイエンス分野の重点事項として位置づけられている。 「ライフサイエンスに関する研究開発の推進方策について」（平成１４年６月、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会）において、「トランスレーショナルリサーチの総合的推進」は「国として早急に取り組むべき推進方策」として位置づけられている。 「今後のがん研究のあり方に関する有識者会議」報告書（座長：杉村隆 国立がんセンター名誉総長）が平成１５年3月に取りまとめた「今後のがん研究のあり方について」において、重点的に研究を推進する分野として「基礎研究の成果を臨床・公衆衛生に導入するための橋渡し研究としてのトランスレーショナルリサーチの推進」が明記されているところ。

⑩得ようとする効果及び達成年度	本施策により基礎研究成果の有効な活用が図られるとともに、有効ながん治療薬等の開発につながれば、その経済効果は相当規模に上ることが期待される。	達成年度 平成２０年度
⑪備　　考	８月１１日に開催された科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会ライフサイエンス委員会において、外部専門家・有識者による事前評価を実施。	

革新的ながん治療法の開発にむけた研究の推進
－がんトランスレーショナルリサーチの推進－

平成１６年度概算要求額　２５億円

第３次対がん１０か年総合戦略（平成16年度～平成25年度）

－ がんの現状 －

・依然として日本人の死亡原因の第一位であり、年間約３０万人ががんにより死亡

・胃がん、子宮がん等による死亡率は減少する一方で、大腸がん等欧米型のがんが増加傾向

⇨ ***有効な対策がとられない限り、がんの死亡者数は２０２０年には４５万人に増加（試算）***

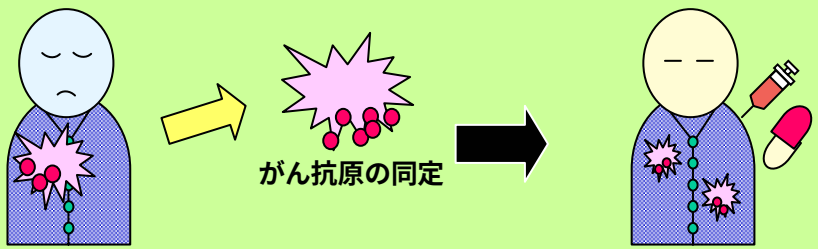
－ がん研究における重点研究推進分野 －

○ 基礎研究の成果を積極的に予防･診断･治療へ応用するトランスレーショナル･リサーチの推進

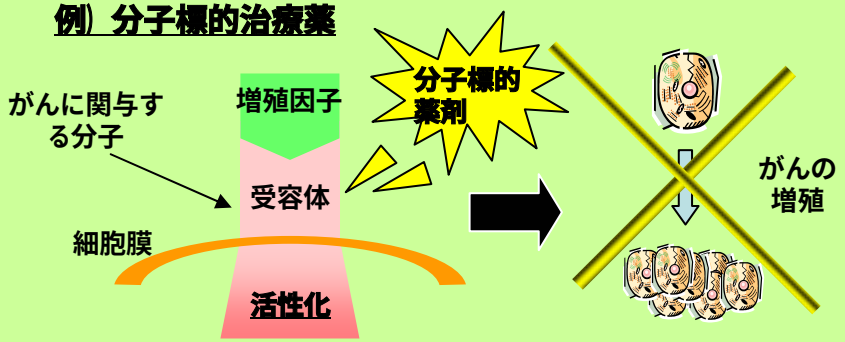
事業概要

大学等において世界をリードする研究が実施されている免疫療法や分子標的治療法など、次世代のがん治療法の開発につなげるための研究を推進

例）免疫療法



例）分子標的治療薬



第3次対がん10か年総合戦略」（平成15年7月25日決定）における今後の方向

戦略目標：我が国の死亡原因の第一位であるがんについて、研究、予防及び医療を総合的に推進することにより、がんの罹患率と死亡率の激減を目指す。

がん研究の推進

（1）学横断的な発想と先端科学技術の導入に基づくがんの本態解明の飛躍的推進
（2）基礎研究の成果を積極的に予防・診断・治療等へ応用するトランスレーショナル・リサーチの推進
（3）革新的な予防法の開発
（4）革新的な診断・治療法の開発
（5）がんの実態把握とがん情報・診療技術の発信・普及

がん予防の推進

（1）がんの有効な予防法の確立
（2）がん予防に関する知識の普及の促進
（3）感染症に起因するがん予防対策の充実
（4）がんの早期発見・早期治療

がん医療の向上とそれを支える社会環境の整備

（1）がん研究・治療の中核的拠点機能の強化等
（2）がん医療の「均てん化」
（3）がん患者等の生活の質（ＱＯＬ）の向上
（4）国際協力・国際交流の促進並びに産官学協力の推進

がんの罹患率・死亡率の激減